

都市再生整備計画 事後評価シート  
二日市地区(第二期)

令和 3年 3月

福岡県筑紫野市

様式 2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	筑紫野市	地区名	二日市地区（第二期）			面積	98ha
交付期間	平成29年度～令和2年度	事後評価実施時期	令和2年度	交付対象事業費	277.5百万円	国費率	0.4		

1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名									
	基幹事業	提案事業	・道路事業（市道二日市南4丁目1号線整備事業、市道北原田・野添線整備事業、市道野添4号線枝線整備事業） ・地域生活基盤施設（生涯学習センター耐震化事業、文化会館耐震化事業） ・事業活用調査（事業効果分析調査）									
当初計画から削除した事業	事業名		削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	基幹事業	提案事業	なし				-					
	基幹事業	提案事業	なし				-					
	基幹事業	提案事業	なし				-					
新たに追加した事業	事業名		削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	基幹事業	提案事業	なし				-					
交付期間の変更	当初	平成29年度～令和2年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-						
	変更	変更なし										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期	
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	東町（行政区）の人口	人	949	H27	1,017	R2		1,043 (R2.12月末)	○	あり	行政区別・世帯数および人口調べ（R2.12月末）によると、「東町の人口」は従前値より94人増加し、目標を達成した。基幹事業である道路整備事業により、地区内の交通利便性が高まり、低未利用地の活用が図られたものと考えられる。	
指標2	市が行う防災・減災対策に関する満足度	%	82.25	H27	86.50	R2		86.80	○	あり	アンケート調査の結果、「市が行う防災・減災対策に関する満足度」は従前値と比較して約4.6ポイント向上し、目標を達成した。基幹事業である指定避難所の耐震化工事や、関連事業の床上浸水対策特別緊急事業等が評価されたものと考えられる。	
3) その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期	
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1												
その他の数値指標2												
4) 定性的な効果発現状況												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた								
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				-				
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
住民参加プロセス	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた									
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				-					
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた									
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				-					
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

## 様式2-2 地区の概要

二日市地区（第二期）都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値
大目標…災害に強く誰もが住みやすい都市基盤の整備		東町（行政区）の人口	単位：人	949	H27	1,017	R2	1,043 R2.12月末
目標1…交通利便性を意識した市街地整備を推進し、市外からの移住を促すことにより、将来的に予測される人口の減少を抑制する		市が行う防災・減災対策に関する満足度	単位：%	82.25	H27	86.50	R2	86.80 R2
目標2…地域防災計画で定める指定避難所の機能改良を行うことにより、防災・減災に関する市民満足度の向上を図る								

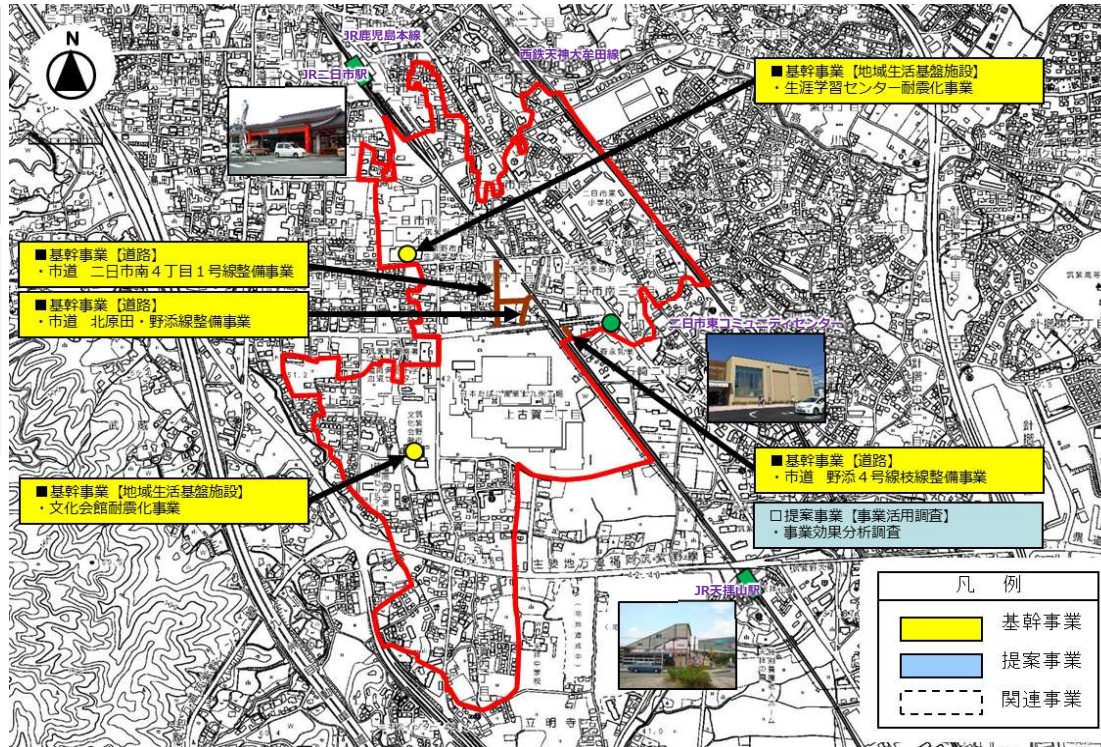
■市道 二日市南4丁目1号線整備事業



■市道 北原田・野添線整備事業



■文化会館耐震化事業



■生涯学習センター耐震化事業



■市道 野添4号線枝線整備事業



### まちの課題の変化

・本市の人口については、昭和47年の市制施行以降、一貫して増加していますが、国立社会保障・人口問題研究所が平成30年に発表した人口推計によると、本市の人口は令和2年に最大となり、その後、減少すると見込まれています。また、年齢階層別人口構成比では、老年人口の割合が今後高まっていくものと推計されています。このことから、市外からの移住を促す施策と交通利便性の向上をはじめとした誰もが住み良いまちづくりを意識した取り組みが重要となってきます。

・近年頻発する豪雨災害等を受けて、災害に強い安全・安心な都市基盤に対するニーズが高まりを見せており、治水対策や避難所として指定している公共施設等の老朽化対策をはじめとした強靱なまちづくりが求められています。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、避難所の設営・運営方法等についての創意工夫が求められています。

### 今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

・本地区が、鉄道駅やバス停などの公共交通機関からのアクセスが良好であることを幅広くPRするとともに、平成31年1月から本地区内を運行している市コミュニティバス「つくし号」の利用促進に繋がる取り組みを進めるなど、交通利便性の向上について推進していきます。また、市外からの移住を促すための取り組みとして、未利用地における開発誘導や子育て世代が暮らしやすいと感じる子育て支援・学校教育の充実などに努めていきます。

・本地区の防災・減災対策については、筑紫野市地域防災計画に基づいた取り組みを進めるほか、避難所として指定している公共施設等の老朽化対策については、筑紫野市公共建築物長寿命化計画を踏まえた計画的な整備に努めていきます。また、治水対策については、高尾川・鷺田川地下河川築造工事完了後の本地区内での影響を注視するとともに、避難所の運営についても、新型コロナウイルス感染症対策を意識した設営等に努めていきます。